

「教育臨床総合研究 特別号」

島根大学と教育委員会との連携について

Cooperation between Shimane University and the Board of Education

塩 津 英 樹*

Hideki SHIOZU

権 藤 誠 剛*

Seigou GONDOU

田 中 賢 一*

Kenichi TANAKA

要 旨

島根大学教育学部附属教師教育研究センターが、島根県教育委員会と連携して実施している現職教員研修は、今年度で4年目を迎えている。ここでは、平成25年度の現職教員研修の取組みについて報告するとともに、その成果と展望について明らかにする。

〔キーワード〕 現職教員研修 大学 教育委員会 連携

I はじめに

近年、教職の専門性の高度化と学び続ける教師像の確立が求められている。グローバル化、高度情報化、少子高齢化といった急激な社会変化を背景に、教員の知識・技能も絶えずリニューアルすることが期待され、教職大学院の設置（平成20年）、教員免許更新制（平成21年）など、教職の高度な専門職化に関わる政策が進められている。とりわけ教員免許更新制は、これまでの教職生活を振り返るとともに、新しい学びの機会を提供するものである。教員の養成は大学、卒業後の研修は教育委員会という従来の構図を脱却し、大学と教育委員会が連携・協働し、生涯にわたって教員を支援する体制作りが求められていると言えよう。

島根大学教育学部は、県教育委員会との連携を一つの手がかり（例えば、県からの教員の派遣）としながら、1000時間体験活動を始めとした教員養成の改革・改善、教職課程の質的な向上に取り組んできている。また平成21年度以降、島根大学教育学部では、附属教師教育研究センターが中心となって、県教育委員会・県教育センターと更なる連携方策について意見交換を行ってきた。そこで確認された大きな課題が「現職教員研修プログラム」の協働開発であった。

中央教育審議会（答申）「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」（平成24年8月28日）には、教育委員会と大学の連携・協働が謳われており、その事例の一つとして、「現職研修プログラムを協働で開発すること」が挙げられている。それに先だっ

* 島根大学教育学部附属教師教育研究センター

て、島根大学教育学部は、平成22年度に、先の県教育委員会との連携・協働をさらに具体的に進め、現職教員を対象とした研修プログラム「スクールマネジメントの実践的課題 ―学校の現代的課題を解明する―」を協働開発した。以下、現在、附属教師教育研究センターが担い実施している現職教員研修の概要を紹介するとともに、島根大学教育学部と県教育委員会の連携・協働の現状、その成果と展望について述べていきたい。

Ⅱ 現職教員研修の概要

現職教員研修プログラムは、平成22年度に「現職教員研修の高度化・体系化を実現する大学と教育委員会の協働プロジェクト」として試行され、翌23年度から本格実施、今年で4年目を迎えている。平成25年度は、10月28日（月）から11月8日（金）までの前期2週間、翌年1月27日（月）から2月7日（金）までの後期2週間の計4週間にわたって実施された。研修は前期、後期ともに同じ受講者で、研修内容はベーシックコース（前期2週間）とアドバンスコース（後期2週間）から成り、研修時間は、前後期、各60時間の計120時間である。ベーシックコースは、スクールマネジメントに関する内容が中心となり、全員が同一の研修内容を受講する。アドバンスコースは、「マネジメント上級」、「特別支援教育」、「教科指導」の3コースからなり、受講者の希望をふまえ、県教育委員会と協議のうえ、コース分けを行っている（「教科指導」コースは、年度によって教科が変わる：平成25年度は数学）。なお、前期の研修内容を可能な限り現場で生かしてみるとの意味から、前期と後期の間では、勤務校等での課題に基づいた取り組みが課せられ、後期においてその報告が求められる。

受講対象者は、（主として島根県の）小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、県教育委員会、県教育センター及び教育事務所等から、県教育委員会によって選抜された、主幹教諭・指導主事クラス約20名である（平成25年度の受講者数は18名）。前後期を通じて、島根県・鳥取県教育委員会及び教育事務所関係者からも講義の聴講希望があれば受け入れている。研修を担当する講師は、島根大学の教員を始めとして、文部科学省、国立教育政策研究所、他大学、教育委員会、学校、企業等から招聘した講師である。専門性を生かした講義、演習、グループワーク等が行われ、こうした現職教員研修に対する受講者の評価は肯定的である。ベーシックコース（前期2週間）の受講者は、次のような感想を残している。

（受講者A）

「もっと学びたい」、「もっと知りたい」、「リーダーとは何なのか」…。2週目の研修を終えて、一番感じていることです。1週目の研修は、自分の置かれている立場を自覚し、リーダーとしてしっかり学ぼうという意欲が先行していました。講義のすべてを聞き漏らさないようにし、内容をしっかり覚えようという気持ちばかりでした。しかし、2週目に入ると、「今の自分に足りないこと」や「今の自分に必要なこと」を意識するようになったのです。講義や演習を通して、知識のなさや認識の浅さを思い知れば知るほど、「今の自分」の状況が見えてきました。自分にできることや、このままではうまくいかないことを次第に気づくようになってきました。もちろん、後期の研修が始まるまでに課せられた

課題を意識したこともその要因かもしれません。ただ、がむしゃらに研修を受けていた自分から、「目的意識を持った自分」に変わったことは確実に言えると思います。2週目の講義も専門的な話題が多く、その道のエキスパートの講師陣でした。何も知らなかった自分への腹立たしさと、専門的な知識や体験豊富な講師への尊敬の気持ちが強まり、「もっと学びたい」、「少しでも講師のレベルに近づきたい」という気持ちが大きくなりました。それと同時に、自分に足りないもの、それは、「幅広い視野でものごとを見ること」であることに気付いたのです。

(受講者B)

すべての講義の中で、新しい発見や認識を持つことができた。研修全体を通して、教師として生徒の前に立つ者としての「専門家倫理」をもっと意識しなければならないと思った。これまで授業においては専門家という自負を持って取り組んできたという意識があるが、その他の校務については、そのほとんどが、これまでの教師としての経験によって作上げられた感覚や、浅い知識で動いていたように反省している。常に研究と修養に努め、教育者としての自覚と自らの教師としての責任を感じながら職務を行っていかねばならないことを強く感じた。

Ⅲ 成果と展望

現在、島根大学教育学部と県教育センターは、年に2回、情報交換会を開催して様々な形での連携可能性を模索している。平成25年度に実現した新しい取組みとしては、養成から採用の接続による養成の改善・充実と初任者研修の高度化を図るため、島根大学教育学部の教職員による初任者研修参観の他、研修と講習の相互補完による拡充を目指した教員免許状更新講習の共同開催を挙げることができる。平成25年度は、「島根県11年目研修」を更新講習として共同開催したものとして、「異校種体験ワークショップ」があり、また「能力開発研修」を更新講習として共同開催したものとして、「小学校へき地・複式教育講座」がある。今後も、県教育センターの要望等を踏まえて、講習の更なる拡充を目指したい。

さらに今後の連携案として、県教育センターのスタッフによる大学の講義等の視察、教職員研修における講師依頼、県教育センターの所員研修の講師依頼、大学の講義等への講師派遣、諸成果の検討、調査分析・研究などがある。こうした試みの実現により、島根大学教育学部と県教育委員会、大学と現場との相互理解と協力、共同開発の一層の推進を図ることによって、再度、養成と採用と研修との有機的な関連を深めていく。それを教員全体の質の向上へと結びついていくことはもちろん、学校の中核となる研修受講の教員がスクールリーダーとしての力量を発揮し、教員がチームとしてまとめ、学校全体で管理職を中心として学校課題の改善・解決にあたり、児童生徒の確かな学力や豊かな人間性・社会性の伸長を実現していくことが期待される。

そうした学校現場の改革にとって、どのような現職研修が望ましいのか、現職研修の在り方やプログラムの質の向上を目指していくために、研修で終了するのではなく、本研修後の学校

現場等での取り組みや振り返りを調査して、研究機関としての大学がそれを分析・研究する。その結果について県教育委員会との連携・協働の下に合同検討会等の機会を設け、今後の具体的指針と方策とを創発していく段階にあると言えよう。

写真1：「学部学生との懇談」の様子



写真2：講義「人生は選択の連続だ」におけるワークショップの様子



課題 1

平成25年度研修レポート（前期・第1週）－何を学び、何を考えたか－
平成25年10月28日（月）～11月1日（金）

番号 氏名

1. 学びの成果，実践上の課題の理解レポート（第1週）

○平成25年10月28日（月）（2限）

講義名「島根県の現職教員研修体系がめざすもの」

○平成25年10月28日（月）（3，4限）

講義名「教育相談・生徒指導の考え方－幼小中連携の視点から－」

【記載要領】

※ 講義ごとに，学んだこと，気づいたこと，職場での実践に繋がりそうだと感じたこと，もう少し聞きたかった点，その他感想等を記載してください（箇条書きで可）。

※ 講義内容を詳細に記録する必要はありませんが，必要に応じ，自身の研修の成果の備忘録として，講義概要を記載しても構いません。

2. 研修を受講する上での要望，改善を必要とする事項等（第1週）

【記載要領】

※ 第1週の研修中，不便を感じたことや，改善が必要だと考えた事項等を記載してください。

3. 研修全体を通じての感想等（第1週）

【記載要領】

※ 1. 2. 以外で，第1週の研修期間中の全般的な感想等を記載してください。

■本課題 [1（レポート），2（要望等），3（感想等）] の提出について

○提出期限：11月5日（火）まで

○提出方法：教師教育研究センター（crte-shimane@edu.shimane-u.ac.jp）宛に
メール送信

ワードファイル名は「H25年度前期（1週目）レポート（番号・氏名）」

“番号”と“氏名”をそれぞれ修正してください。

○第2週（11月5日から）の研修においても同様に記載してください。

課題 2

平成25年度 後期の研修に向けて－学校現場等で実践する課題について－

番号 氏名

前期の研修を受講し、後期の研修に向けて学校現場等で実践する課題について

【記載要領】

前期研修を受講し、そこで学んだことや気づいたこと等を踏まえ、自身で課題を設定のうえ、現職場においてどのように実践しようと考えているのか記載してください。

※ 実践の結果について、後期研修（1月27日）において発表・討議していただく予定です。

（１）課題の提出について

○提出期限：11月15日（金）まで

○提出方法：教師教育研究センター（crte-shimane@edu.shimane-u.ac.jp）宛に
メール送信

※ wordファイル名は「H25年度課題設定（番号・氏名）」
“番号”と“氏名”をそれぞれ修正してください。

（２）本課題の取りまとめ及び配布について

提出された本課題の内容について、本センターで取りまとめた後、参考に受講者へ全員分を送付する予定です。

（３）実践結果発表（1月27日）について

実践結果の発表・討議は班別（3グループ程度）を予定しています。
発表資料の作成は任意とします。

平成25年度島根大学教育学部現職教員研修（ベーシックコース）日程表

	10/28 (月)	10/29 (火)	10/30 (水)	10/31 (木)	11/1 (金)
1 8:30 ～ 10:00	開講式・オリエンテーション	教師はどのように学び続けたら良いのか？－21世紀を生き抜く「研究の実践者」の役割と育成－① 島根大学教育学部准教授 御園 真史	学校教育をめぐる目的の実際と現状から考察する教育問題 百合田真樹人	分かりやすい学校経営を進める管理職のあり方① 松江市立中央小学校長 長 和博	学校経営のあり方①－養護教諭の立場から－ 松江市立第四中学校 養護教諭 松井 浩美
2 10:15 ～ 11:45	多目的ホール (517) 島根県教育センター 所長 長岡 素巳 教育企画部長 坂根 昌宏	多目的ホール (517) 教師はどのように学び続けたら良いのか？－21世紀を生き抜く「研究の実践者」の役割と育成－② 島根大学教育学部准教授 御園 真史	多目的ホール (517) 実習体験：「環境寺子屋」の活動① 島根大学教育学部准教授 松本 一郎	多目的ホール (517) 分かりやすい学校経営を進める管理職のあり方② 松江市立中央小学校長 長 和博	多目的ホール (517) 学校経営のあり方②－養護教諭の立場から－ 松江市立第四中学校 養護教諭 松井 浩美
3 12:45 ～ 14:15	多目的ホール (517) 教育相談・生徒指導の考え方－幼小中連携の視点から－① 島根大学理事・副学長 肥後 功一	多目的ホール (517) 学校の組織マネジメント－ミドルの視点から－① 島根大学教育学部講師 熊丸 真太郎	多目的ホール (517) 実習体験：「環境寺子屋」の活動② 島根大学教育学部准教授 松本 一郎	多目的ホール (517) なぜ島根電工は人を育てたいのか 島根電工株式会社 取締役会長 岡山 秀樹	多目的ホール (517) 自己研修
4 14:30 ～ 16:00	多目的ホール (517) 教育相談・生徒指導の考え方－幼小中連携の視点から－② 島根大学理事・副学長 肥後 功一	多目的ホール (517) 学校の組織マネジメント－ミドルの視点から－② 島根大学教育学部講師 熊丸 真太郎	多目的ホール (517) 自己研修	多目的ホール (517) 自己研修	多目的研修室 (130) 学部学生との懇談
5 16:15 ～ 17:45	多目的ホール (517) 自己研修	多目的ホール (517) 自己研修	多目的研修室 (130)	多目的研修室 (130)	多目的ホール (517) 他
備考	多目的研修室 (130)	多目的研修室 (130)			

平成25年度島根大学教育学部現職教員研修（ベーシックコース）日程表

	11/5 (火)	11/6 (水)	11/7 (木)	11/8 (金)
1 8:30 ～ 10:00	学校管理と法令① 島根県教育庁高校教育課 企画人事グループサブリーダー 木原 和典 島根県教育庁義務教育課企画 人事グループサブリーダー 大場 尚樹	特別支援教育の観点からの学 校教育力向上のための諸要件 島根大学教育学部教授 小川 巖	新教育課程における言語活動 の意義と実際【演習】 ーカリキュラム・マネジメン トの視点からー 前文部科学省初等中等教育局 主任視学官 田中 孝一	自己研修
2 10:15 ～ 11:45	多目的ホール (517) 学校管理と法令② 島根県教育庁高校教育課 企画人事グループサブリーダー 木原 和典 島根県教育庁義務教育課 企画人事グループサブリーダー 大場 尚樹	多目的ホール (517) 政策動向：教員の養成・研修 制度の改善 教員研修センター理事長 高岡 信也	多目的ホール (517) 島根県の特別支援教育 島根県教育庁 特別支援教育課長 原田 雅史	多目的研修室 (130) 人生は選択の連続だ 公益社団法人 ジュニア・アチャブメント日本 専務理事 中許 善弘
3 12:45 ～ 14:15	多目的ホール (517) 学校マネジメントからみた授 業研究 島根大学教育学部教授 権藤 誠剛	多目的ホール (517) 自己研修	多目的ホール (517) 子どもと保護者の現状を理解 する 島根大学教育学部教授 岩宮 恵子	多目的ホール (517) 人生は選択の連続だ 公益社団法人 ジュニア・アチャブメント日本 専務理事 中許 善弘
4 14:30 ～ 16:00	多目的ホール (517) 自己研修	多目的研修室 (130) 新教育課程における言語活動 の意義と実際【講義】 ーカリキュラム・マネジメン トの視点からー 前文部科学省初等中等教育局 主任視学官 田中 孝一	多目的ホール (517) 自己研修	多目的ホール (517) 人生は選択の連続だ 公益社団法人 ジュニア・アチャブメント日本 専務理事 中許 善弘
5 16:15 ～ 17:45	多目的研修室 (130)	多目的ホール (517)	多目的研修室 (130)	多目的ホール (517)
備考				

平成25年度 島根大学教育学部現職教員研修（アドバンスコース） 日程表

		マネジメント上級コース				教科指導（算数・数学）コース				特別支援教育コース						
		講習名	会場	所属	職名	氏名	講習名	会場	所属	職名	氏名	講習名	会場	所属	職名	氏名
1月27日 (月)	1	課題・実践の発表・討議	517 212 265	武蔵大学人文学部	教授（臨床心理士）	武田 信子	課題・実践の発表・討議	517 212 265	武蔵大学人文学部	教授（臨床心理士）	武田 信子	課題・実践の発表・討議	517 212 265	武蔵大学人文学部	教授（臨床心理士）	武田 信子
1月28日 (火)	1	新学習指導要領で目指すもの—数学的活動の充実—	517	文部科学省初等中等教育局	視学官	長尾 篤志	算数・数学科教員の指導改善と授業力育成をどう進めるか	212	教育学部	准教授	御園 真史	特別な支援と特別支援教育	517	教育学部	教授	原 広治
1月29日 (水)	1	学校マネジメント計画—学校の組織力向上とスクールリーダーの役割—	517	国士館大学	教授	北神 正行	学校マネジメント計画—学校の組織力向上とスクールリーダーの役割—	517	国士館大学	教授	北神 正行	学校マネジメント計画—学校の組織力向上とスクールリーダーの役割—	517	国士館大学	教授	北神 正行
1月29日 (水)	2	生徒指導とは	517	国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター	総括研究官	滝 充	生徒指導とは	517	国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター	総括研究官	滝 充	生徒指導とは	517	国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター	総括研究官	滝 充
1月30日 (木)	1	組織的に取り組む特別支援教育	517	教育学部島根県立盲学校	特任教授教諭	三島 修治	新教育課程の数学教育を考える —(1)活用型の問題 —(2)ルーブリックの作成とカリキュラムマネジメント—	212	元立命館大学高等教育開発推進機構（立命館大学理工学部）	教授（非常勤講師）	橋本 洋	ゲームが変える学習支援—一人ひとりの特性に合わせた学習を促すICT技術—	265	総合理工学部	教授	細手 雅彦
1月31日 (金)	1	学校教育とリスクマネジメント—学校の危機をどう防ぐか—	517	高崎市教育委員会	教育長	飯野 眞幸	学校教育とリスクマネジメント—学校の危機をどう防ぐか—	517	高崎市教育委員会	教育長	飯野 眞幸	発達心理学的視点からみた自閉症児の行動—対人発達を基に支援を考える—	265	教育学部	准教授	樋口 和彦

2月3日 (月)	1	教育におけるデータ活用	517	教育学部	准教授	百合田真樹人	教育におけるデータ活用	517	教育学部	准教授	百合田真樹人
	2	校内研修の活性化と充実	517	教員研修センター事業部研修企画課	主任指導主事	永尾 剛	校内研修の活性化と充実	517	教員研修センター事業部研修企画課	主任指導主事	永尾 剛
	3										
	4	自己研修	130				自己研修	130			
2月4日 (火)	1	人事管理行政の現状と課題	517	島根県教育庁義務教育課企画課	グループリーダー	門脇 岳彦	人事管理行政の現状と課題	517	島根県教育庁義務教育課企画課	グループリーダー	門脇 岳彦
	2	カリキュラムを基盤とする学校のマネジメント	517	千葉大学教育学部	教授	天笠 茂	カリキュラムを基盤とする学校のマネジメント	517	千葉大学教育学部	教授	天笠 茂
	3										
	4	自己研修	130				自己研修	130			
2月5日 (水)	1	キャリア教育の現状と課題	517	国立教育政策研究所・進路指導研究センター	総括研究官	長田 徹	キャリア教育の現状と課題	517	国立教育政策研究所・進路指導研究センター	総括研究官	長田 徹
	2	キャリア教育を推進するための視点	517	(併) 文部科学省初等中等教育局児童生徒課	生徒指導調査官		キャリア教育を推進するための視点	517	(併) 文部科学省初等中等教育局児童生徒課	生徒指導調査官	
	3	学校を変える新しいキャリア教師のエンパワーメント	517	筑波大学大学院	教授	浜田 博文	学校を変える新しいキャリア教師のエンパワーメント	517	筑波大学大学院	教授	浜田 博文
	4										
2月6日 (木)	1	学校におけるNIEと情報リテラシー	517	海士町教育委員会教育総務課	派遣指導主事	福間 敏之	学校におけるNIEと情報リテラシー	517	海士町教育委員会教育総務課	派遣指導主事	福間 敏之
	2	一小中学校におけるNIEの実態	517	出雲市立久多美小中学校	教頭	松浦 和之	一小中学校におけるNIEの実態	517	出雲市立久多美小中学校	教頭	松浦 和之
	3	中学校におけるNIEの実態	517	島根県NIEアドバイザー	アドバイザー	多久和祥司	中学校におけるNIEの実態	517	島根県NIEアドバイザー	アドバイザー	多久和祥司
	4	自己研修	130				自己研修	130			
2月7日 (金)	1	大学院生（現職1年コース）課題研究発表及び意見交換	517	大学院生（現職1年コース）課題研究発表及び意見交換			大学院生（現職1年コース）課題研究発表及び意見交換	517	大学院生（現職1年コース）課題研究発表及び意見交換		
	2		212					212			
	3	自己研修	130				自己研修	130			
	4	閉講式	517				閉講式	517			

【時間割】1限 (830～1000)、2限 (1015～1145)、3限 (1245～1415)、4限 (1430～1600)、5限 (1615～1745)